

2019.12.1

特別号  
SPECIAL ISSUE発行 松本市海外都市交流委員会  
事務局 松本市丸の内3番7号 松本市広報国際交流課  
TEL: (0263)34-3220 FAX: (0263)34-3201

## 日中青少年交流推進年

## 友好都市中学生卓球交歓大会

7月28日～31日に友好都市の中国河北省廊坊市で、「松本市廊坊市友好都市中学生卓球交歓大会」が開催されました。日中両政府は2019年を青少年の交流を推進する年「日中青少年交流推進年」と位置付けていて、今回の卓球大会は外務省の認定事業でもありました。市内の大会で好成績を収めた中学生4名の選手を含む一行8名が卓球を通じて、友好を温めました。

◇ 井ノ口 侑果さん（清水中3年）

私は、友好都市中学生卓球交歓大会に参加できることになり、「このような機会はめったにないことだから、卓球を通して、いろいろな人と交流し、卓球以外の文化や環境、町並みなど、ほかのこともしっかり見て、学んできたい」と思い出しました。



まず、卓球についてですが、私の予想ではほかの国の選手は、打ち方、試合の戦術などは全く違うと思っていました。しかし、中国の方と試合をしたら、私達とあまり変わりなくて驚きました。唯一違っていたのは、サーブかレシーブを選ぶ時、日本ではじゃんけんで決めますが、中国では、ボールをかくし、どちらの手に入っているか当てるといった遊びのようなもので決めていた所です。また中国語がわからないので、コミュニケーションがうまくとれるか心配しましたが、中国の選手とダブルスを組んだ時、ジェスチャーや表情などで、言いたい事が分かったり、伝わったりした時はうれしかったです。違う国の人と試合ができたことに驚き、英語がお互いに少し通じたのもうれしかったです。また、卓球王国と言われる中国の同じ年の選手に勝ったことは、自信になりました。中国の選手→



のいい打ち方、サーブなどを真似できるように練習していきたいです。

次に、卓球以外で学んだ事について書きます。中国では通訳の方やいろいろな方に大変お世話になりました。中国の方々は、とても親切でした。中国の子供達が、工作をしているところにお邪魔した時、何人もの子が友達になろうと近づいて積極的に話しかけてくれたり、温かく迎えてくれとてもうれしかったです。どこに行っても楽しかったです。

今回の交流を通して、中国の人や日本の仲間と仲良くなれたことや、松本のよさを改めて考えられたことが、よい経験でした。今回の体験を今後の生活に活かしたいです。

◇ 大池 俊魁さん（鎌田中3年）

「学びの多かった友好都市中学生卓球交歓大会」

自分は今回の卓球交歓大会で初めて海外に行きました。なので出発前二つのことを意識しながら活動をしようと決めました。一つは卓球の本場中国の卓球と自分の卓球の相違点を見つけ、たくさんの事を吸収すること。もう一つは卓球だけでなく言語や食事その他諸々の文化に触れるということです。卓球では廊坊市代表の男子二人の選手は非常に攻撃的でなおかつミスが少なく穴の無い卓球をしていました。また一球一球の質も非常に高く自分では全然相手になりませんでした。しかし試合後中国の選手と練習してみると自分とその選手の体の使い方に大きな違いがあることに気づき、自分もそれをまねてやってみると、まだ中国の選手よりは弱いものの今までより安定していいボールが打てるようになりました。またどうにかいい試合をしたいと思いついていろいろな打ち方で返していたら、その選手は毎回少しびっくりしていました。そこから中国選手より自分の方が球種が多く相手がやりづらい卓球ができることに気づき自分の卓球の長所を知る

(→裏面に続く)

(→表面から)

こともできました。

文化に触れるというところは、2日目、3日目に行った博物館などでたくさん触れることができました。またさまざまな方のスピーチや選手との会話から少なくともありますが中国語も学ぶことができました。そして食事ではびっくりすることがたくさんありました。まずタレなどに入っている香辛料の多さ。また出てくるものの衝撃です。なんとイボイボした牛の胃袋とかも出てきました。しかし見た目は衝撃的でも食べてみたら意外とおいしいということもあったので楽しんで食事をすることができました。

このように卓球にしても海外の文化に触れることにしてもこんなに充実した交流ができる機会はないと思います。なので今回の交歓大会で学んだことを余さずこれからの人生に生かしていきたいと思います。



◇ 市川 真慈さん (丸ノ内中3年)

「貴重な経験になった中国遠征」

僕達、松本市・廊坊市友好都市中学生卓球訪問団は7月28日から31日までの4日間国際交流として中国の北京市と廊坊市に行ってきました。僕は初めての海外でも緊張しました。

飛行機も初めてでとても怖かったのですがすごい高いところを飛んでいて色んな物が小さく見えていてとても面白かったです。北京空港に着いて驚いたことは空気がとても曇っていて1Km ぐらい先はぼんやりとして本当に中国に来たんだなあという感じでした。街に出るとすごい数の人や車がいてすごいと思いました。歓迎夕食会は見たことのない物ばかりでできてやっぱり日本と文化が違うと感じました。

2日目は卓球場に行って中国の選手と練習をしました。中国の選手はとても安定感があってすごく強かったです。中国の選手とダブルスを組んで試合をしたり、混合ダブルスを組んだりしました。

3日目は2日目の決勝戦を行いました。試合が終わり表彰式が行われた後に中国選手といっしょに食事をしました。その後に天安門広場に行きました。中国では珍しい青空が見ることができました。ガイドさんとも北京市のホテルに着いたところで別れました。その日の夕食

会は日本人だけとなりました。

4日目はホテルの近くの天壇公園に行きました。外はすごく暑いのに人がたくさんいて有名などころなんだと感じました。北京空港までバスで行って飛行機に乗り無事に日本に着くことができました。日本に帰るととても安心感がありました。

この4日間を通して貴重な体験ができました。みんなでもっと楽しく行動をすることができてすごく満足しています。他国の異文化をしっかりと学ぶことができてよかったです。

今回の経験を生かして学校生活にも卓球にももっと取り組んでいきたいです。



◇ 岡野 華奈さん (鎌田中3年)

「友好都市中学生卓球交歓大会を通して」

私は、今年も日中友好都市卓球交歓大会に行かせてもらいました。私は初めて飛行機に乗りました。最初はワクワクしていました。そして飛び立った時はすごくビックリしました。日本の形がよく見えて、日本ってこんな形をしているんだなと思いながら、日中友好の旅が始まりました。

1日目は、表敬訪問をしました。廊坊市のみなさんが温かく迎えてくださり、嬉しかったです。また、ホテルも大きくて、びっくりしました。

2日目は、少し観光をしつつ、練習をしました。ダブルスの練習をしたりしましたが、コミュニケーションが取れなくてすごく心配でした。そして、昨年一緒に日中友好卓球交歓大会でチームを組んだ王力平さんがいました。久しぶりに会うことができ、すごく嬉しかったです。

そして、3日目になりました。シングルスもダブルスも決勝戦で負けてしまい、全部銀メダルでした。悔しかったけど、これも思い出なので良かったです。その後は天安門広場へ行きました。たくさんの方がいてびっくりしました。

そして飛行機に乗って楽しい4日間は終了しました。この4日間は不安だらけでしたが、色々な方が温かく見守ってくれたので楽しい4日間になりました。ここでしか味わえない経験をする事ができ、すごく良かったです。

